

実施報告書

1 学校名 多治見市立市之倉小学校

2 実施内容

(1) 高速大容量回線を用いた学校間等の連携

職員にもテレビ会議システムを自ら操作し、テレビ会議が行えるようにするため、1月に研修会を行った。この研修会には次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業を行っている多治見市立池田小学校に協力をしてもらった。実際にテレビ会議で池田小学校の職員と会話をし、映像画面の切り替え、テレビカメラのアングル、ズームなども操作した。

テレビ会議システムを操作する職員はほとんどが初めてであったが、何度か操作を見たり行ったりする中で基本操作をつかんいった。

(2) 「わかる授業、楽しい授業」の実施

・個性化、個別化に向けたコンピューター活用

「めざせ！算数博士 INTERNET BATTLE 岐阜県版」が、H14年度岐阜県公共サービスIT化推進事業の実証実験として、1月6日から2月28日までインターネットで行われることになった。このサービスの内容は、算数の基本である九九、足し算、引き算、分数、四則混合の5種類から計算問題を選び学習するもので、スピードと正確さが求められるものであった。4年生の113名、6年生の107名のユーザー登録をし算数の授業時間を使って行った。

ゲーム感覚で学習でき参加回数や最速タイムを記録できるため、どの児童の意欲的に行うことができた。4年生は九九を、6年生は分数のかけ算、四則混合の計算を中心に行った。全体的に計算を正確に速くできるようになったが、スピードばかりを求めて計算が不正確になってしまう児童もあり、ノートなどにしっかり計算をしてから回答するという指導の必要性を感じた。

今回のサービスは計算中心の内容であったが、今後は文章題、面積や体積などの問題種類を増やしていくこと、他教科のドリル的な問題の開拓をしていくことなどをしてくと、利用者も増えて児童に力をつけるものになっていくと感じた。

(3) 地域素材のデータベースの構築

パソコンを使った福祉協力校交流会発表

福祉協力校の活動は、児童・生徒がボランティア活動や日常の身近な福祉活動を体験し、社会福祉への理解と関心を高めることを目的とした活動で、多治見市内の小中学校19校で取り組まれている。2月22日(土)には、児童・生徒が

1年間の福祉活動の成果を発表し交流する「福祉協力校交流会」が開催され、本校の児童会役員が代表として発表をした。本校は地域との結びつきが強く、老人クラブの方との交流、社会福祉施設への訪問・交流活動などを通して学んだことをパソコンを使って発表した。

(プレゼンテーションの資料は別紙参照)

市之倉町の伝統産業(陶磁器産業)で学んだことを発信

市之倉町は陶磁器産業が盛んで、町内には多くの窯元や陶器商が建ち並んでいる。しかし、児童は陶器作りの工夫や苦労について知らないのが実情であった。

そこで、昨年度から児童に地場産業に目を向けさせることが大切と考え、5年生総合的な学習「チャレンジ!市之倉陶器作り隊」として地元の窯元さんの協力を得て学習してきた。

児童たちは窯元さんで体験学習をする中で、陶器作りにより興味をもち窯元さんの苦労や工夫を学んできた。2月の総合的な学習の発表会では、お世話になった窯元さんを招待して発表会を行った。窯元さんから学んだことを、自分たちがデジタルカメラで撮影した情報やインターネットで得た情報などを使って発表するグループもあった。プレゼンテーションの資料は、児童が教師や親の援助でパワーポイントを使って作成した。

(プレゼンテーションの資料は別紙参照)

3 成果と課題

職員がテレビ会議を経験し、テレビ会議システムの基本操作が分かった。

インターネットを使って算数のドリル学習ができ、児童の意欲化につながった。また、使い方によって計算力をつけるために有効であることも明らかになった。

地域素材を画像化する機会が多くなってきた。

リンクの設定、表の作成などホームページ作成の研修をより進めていく必要がある。

4 今後の方向

(1) テレビ会議システムを活用した学校間交流

- ・池田小学校、脇之島小学校とテレビ会議システムを使って、「研究会」「児童会交流」など実施できそうなことを連携して行っていく。

(2) 「わかる授業、楽しい授業」の実施

- ・いろんな教科でパソコンを使った授業に挑戦する。
- ・総合的な学習におけるデジタルコンテンツ作りをする。